母の日に娘より届きしカーネーションそうよ私まだ赤く咲く

手花火をおそるおそると受くる孫

子

秋茄子を焼き茄子にして夕餉かな

父母の眠る故郷蝉しぐれ

宝愛句らぶ(中央区)

鳴き尽きし路上の蝉を草の上に

まだ動く身体に感謝盆踊

道子 千枝子

セミ穴の数だけ生きた証かな

和

志 臣

見山台新樹会(北区)

盥船順番待ちの磯遊び



# (東灘区)

年々に足の衰へ冨士登山 念い願ひ湧き出ず雫若葉光 昼寝覚め夢のつづき星空

パラソルを差して大人の気分かな 心太豪商の町並み赤ポスト クラーのなかのうたたねさめざめと

昼寝とは老に極楽寿いのちなが 汗流しひたすら打込むつちの音

ひまわり句会(北区)

あがりぐち小さき靴や夏休み

辻

寿賀子

浴衣着て金魚すくいにはしゃぐ児らる井

里 朋

ひよどり台句会(北区)

早智子 比佐美 松 子

月下美人湿る家中清めたる

スリッパの音の鈍さや梅雨最中

矢谷登美子

柿若葉ふるさと里の寿司なつかしき **毋中** 

被災地の田にも水引き田植えかな

扶喜子

北斗句会(北区)

安治川に無料の渡船草の花

母真似る小さき合掌魂送り 送り火の消えて独りの夜となりぬ 増田 嗣夫

湯の町をバイクで走る盆の僧 秋山 弘之

秋風に乗り来る沖の遠汽笛 岸下

正二

ひぐらしや自由研究あと十日

抱っ子され手に一本のきゆうり持つ松隈 弘子

朝凪やまどろみにみし母の笑み 老蛍の声のみ聞こゆ大けやき 涼もとめ木陰に入れば蝉時 石の横山椒魚とにらめっこ 高石 丸尾 貞永 佐溝満喜子 勝行 弘子

梅の美会(兵庫区)

秋立つやより青い空白い雲

岡田富早恵

花山短歌会(北区)

盆に来て三度振り向く帰る子や

菊日和波乱万丈八十路かな

山口 茂子

歌子

時鳥鳴くや廃村静まれり

石本

夏来たれど雨戸の多しニュータウン(西) 寺岡

蝉しぐれお盆過ぎて小さき声

藤田ユイ子

口が胃に凍みわたるかき氷

山田 朝子

粟野 富江

新米の湯気の向うの笑顔かな

夕凪に食欲もなく一人膳

新長田地区和楽会俳句同好会(長田区)

ふる里の匂いとともに今年米 台風来ラジオ聞き入る夜も一人

益井 有賀

信子

英子

桂木ひふみ会

(北区)

木村 竹内 トキ

地蔵盆子供に菓子を渡す役

紅葉降る夕日の足湯友二人

孝人 幸子

> わが余生神に委ねて高高枕 あの小言クスリとなって蘇る

毒薬頼って生きる還暦後

採血の帰路の空腹冷やし麺

桃山台クラブ文芸部(垂水区) 終戦日尊し平和守りゆく

田畑美恵子

昭敏

筑栄会(北区)

君と我委任状など水くさい 簡単で難儀でもあり委任状

杉尾

大和ケント

笹岡 淑子 京念久美子 荒木 宗Q

恋文に返事欲しくて切手入れ

宿に着きゆかたを合わす二人連れ

かほう まさこ

その昔浴衣はおしめヘリサイクル ダンゴ虫イカツイ姿アルマジロ?

三茶

あきら

花切手楽しい気持乗せて貼る

かをる

似

昼下がり蟬も沈黙秋何処

きらく句会(西区)

光子 弘子

先駈けもしんがりも謎蟻の列 咲き初める夕すげ向かう友の家 大橋

かたつむり生れたばかりの背伸びかな 紫陽花や隣家同士で色競い 尾上 喜田 弘征 正紀 治子

へそ曲がり胡瓜はくの字になりたがり 汁だくの配達の人笑顔なり 田野 阪本 育利 道子

> 切手貼り送る相手にメールをし 切手軍値上げスマホに苦戦中

つくしんぼ

暑きかな二十四パリ熱きかな 温暖化季語を見直す神無月 一度三度風試しみて扇子買ふ (灘) 山上 (灘) 福井 東 北田 幸子 建樹 悦子

清流の落ち合う故郷天の川 紫陽花に競ふ彩あり傘の波 柿落ち葉重なるほどに夜の雨 松が池水面乱る秋時雨 秋袷心踊らせ歩を早め 北 須 (北)馬場みつえ 福本 山田十三子 安田奈美江 和恵

甲子園歴史刻んで一世紀

(垂) 小髙

ごっつあんで済む

ます議員のお気楽さ (須) 久山

あの世へは運賃いらぬいずれ逝くとこ(北)小林

お前呼ばわりする人品格なし(北)北野

これ息子孫の会話は日本語か(東)増田

芳之

連れ添えば知らず

<sup>9</sup>知らずに似た者夫婦**(東) 早川キミエ** 

霧たちこめ島々おぼろ風水画(灘)

都倉

# ◆個人

絵の旨き友の個展を珍らしく夫と訪いたり楽しひととき 年とりて弱くなりゆくわが体病気には負けたくはなし シャモジは曲がっているから良いんだよ父の口癖腑に落ちないが 富田 一人居の静かな空のガレージも他府県ナンバー盆の八月 八月のセミ鳴く朝の山青く稲の直立花白じろと 清水 山田加壽代 礒元カヨ子 船崎めり子 惠子 夢助 種蒔きし夏の庭辺のおちこちに白花清し笹百合の咲く

楽しみはサロン仲間とお茶時間いつの間にやら私最高齢 港町神戸元町夜も更けて霧の波止場にジャズシンガー 立秋も初秋もなく今朝の窓暦を告げにか蜩は鳴く 遠き日に思いめぐらす星の村君と眺めし満天の星

茄子三つ胡瓜三本の収穫はひとり食すに余る豊作

西

増田

**P** (灘) 朝岡 上田

垂 (須 兵 江口 大賀 堀江千生子 啓子 清子

